

データから考えられること（考察）

---

## マーケット出店者の売上推移



マーケット出店者の売上データを収集しておくことで、新規出店者に対しての見た目や人、グラフィックなどの視覚的なアプローチのほかに、数的根拠のアプローチによって、まちなかで開催されるマーケットにかかわる出店者が増え、持続性が生まれるのではないかとこの仮説のもと、検証しました。

売上統計を抑えておくことで、どんなときにどのようなモノや体験が人気があるのかなどの把握するマーケティングテストにもなりました。今回は売上の多かった商品等のマクロ視点は紙幅の関係で割愛し、ここでは全体の売上推移に絞って考察します。

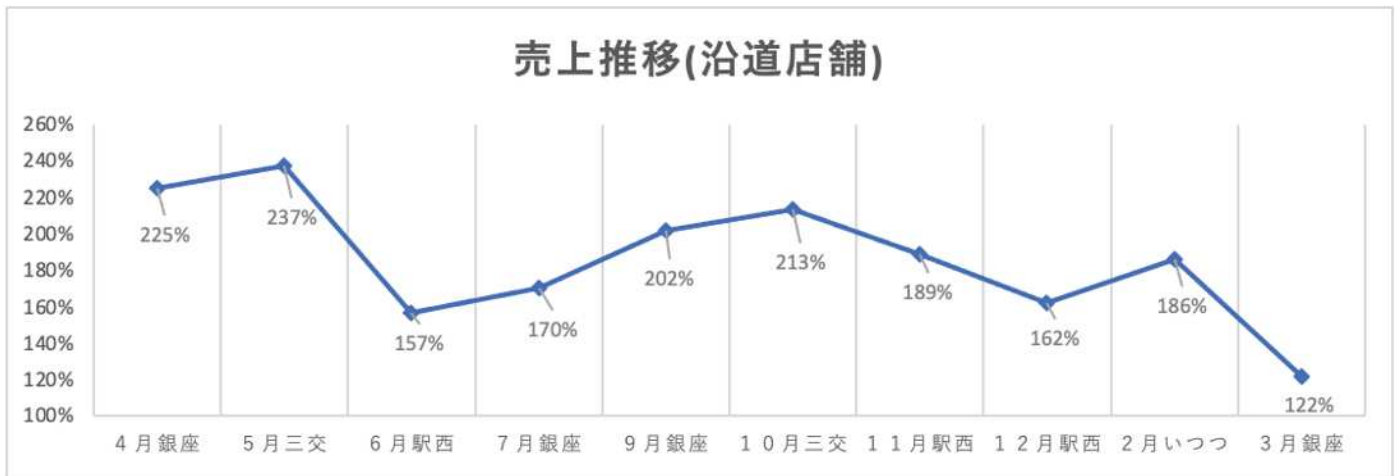
売上推移を比較してみると「銀座通り」で開催したマーケットの売上が比較的高くみられました。また、イベント（今回は市内の7つの高校生が参加する合同文化祭、七高祭）と同時開催することによって、日常のマーケットと非日常のイベントの相乗効果がみられることが分かりました。

最も見落とすことのできない視点としては、年間のマーケットを通じて、計2,367,277円の「お金」がこのエリアに集まり、そして、「人」が流れるきっかけを生み出していることです。まちなかで開催するマーケットがいかにウォークアブルの推進に向けた第一歩の手法として、重要な存在にあるかが証明されたといえます。

また、地域経済循環の観点からも、外に出ていくお金を市内に留めておくことができたという点も重要です。仮にこの「お金」と「人」が、大手ナショナルチェーン等で消費され、人の顔が見えない海外の資本として流れていくことが続くと、市内の地域経済は衰退し、地域に資本が残らなくなります。その状況下で、なにか新しくチャレンジをする、なにかお店を始めようなどという着想にいたらず、まちなかで今後、何かが起きる期待値が次第に下がっていくことにつながります。

もし、今回、動かなければ、何もやらなければ、お金も人も、このエリアや街路に集まらなかったと考えられ、マーケットをスタートさせたことで、これからのウォークアブル推進に向けた第一歩になり得たと結論づけます。

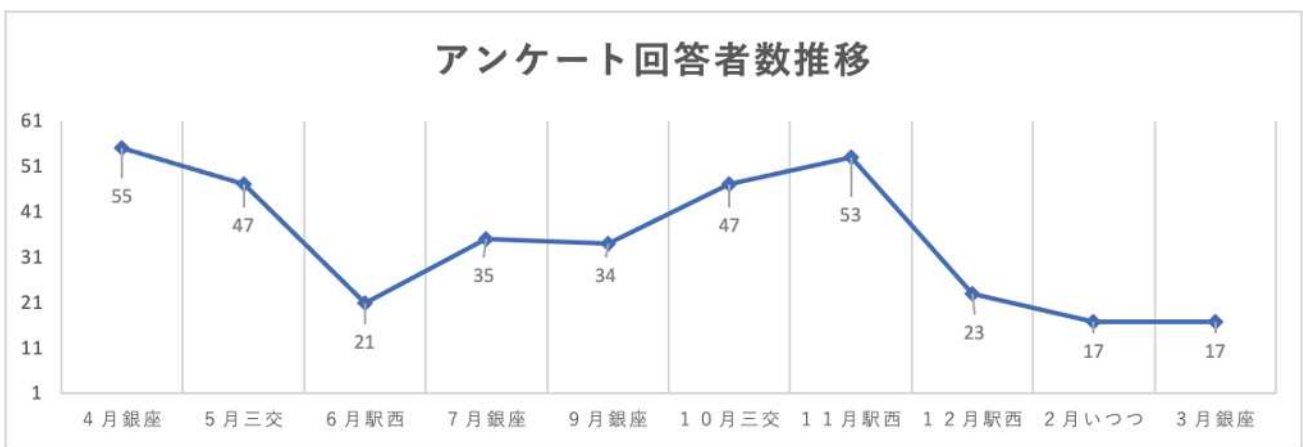
沿道店舗の売上推移



全てのマーケットにおいて、沿道店舗(商店街の店舗)の売上が上昇していることが判明しました。売上推移にあたっては、前週の日曜日（店休日等の場合はさらに前の週）を100%とし、マーケット当日の店舗売上を検証したものです。ご協力いただいた店舗は銀座通り商店街にお店を構える飲食を中心とした5店舗です。

この結果から、マーケット開催によって沿道の既存店舗に影響を与え、売上が上昇するとともに、お店とお客のつながりや、何らかのコミュニケーションが生まれていることが分かります。ゆえに、マーケットを続けることによって、これまで行ったことのなかった商店街の良さに気付く人が現れ、お店を構える店主とのやりとりや、買い物の楽しさなどを初めて知る人が現れたり、昔、商店街で買い物をしていたことを思い出す人も現れるなどの次のアクションにつながるかもしれません。つまり、マーケットを開催していない日であっても、日常的に商店街で買い物をする人が増えていく可能性が高まり、日常的にまちなかを歩く機会が増えることにつながるのではないか。

アンケート回答者の推移



通りによる変動など特徴はみられず、比較的、雨期や寒い時期などに回答者数が減少する傾向があり、気候によって回答数に変動が見られることが分かりました。

## 五感で感じる指標

今回の調査では、本庄市ならではの指標を考案するための基礎的調査として、人が感じる「五感」に基づいた調査を行いました。

設問と設問を比較し、一方の数値が上がると、もう一方の数値も上がる”相関係数”を求めることによって「居心地がよく歩きたくなるまち」という指標に対し、人がどこから居心地のよさを感じるものなのかを調査する新しい試みです。

	まちなかで緑や自然を感じた。	まちなかで子どもたちの声を感じた。	知らない路地裏に入っ てワクワクした。	商店街の店主と話して おもしろかった。	食べ物などのいい匂い がしてワクワクした。	偶然に知り合いと出 会って嬉しかった。	知らない人と会話して おもしろかった。	居心地がよく歩きた くなるまちだと感じた。	メイン会場付近は一方 通行のため普段よりも 車を気にせずに安全 だと感じた。	普段入れない空き家 や空き店舗に入って ワクワクした。	歴史のある古いま ちなみは心地がいい。	駅のなか(テラスパ ス)に出店者がいた のでワクワクした。	道路からの熱の戻り を感じた。	木陰が少なく暑く て危険を感じた。
まちなかで緑や自然を感じた。	1	0.406	0.293	0.337	0.659	0.220	0.189	0.630	0.571	0.475	0.499	0.753	0.344	0.212
まちなかで子どもたちの声を感じた。	0.406	1	0.988	0.988	0.944	0.956	0.960	0.946	0.958	0.925	0.983	0.899	0.949	-0.775
知らない路地裏に入ってワクワクした。	0.293	0.988	1	0.998	0.907	0.944	0.958	0.912	0.903	0.868	0.949	0.839	0.974	-0.855
商店街の店主と話しておもしろかった。	0.337	0.988	0.998	1	0.928	0.930	0.941	0.933	0.909	0.859	0.955	0.863	0.983	-0.839
食べ物などのいい匂いがしてワクワクした。	0.659	0.944	0.907	0.928	1	0.826	0.819	0.997	0.949	0.860	0.961	0.986	0.918	-0.592
偶然に知り合いと出会って嬉しかった。	0.220	0.956	0.944	0.930	0.826	1	0.994	0.838	0.926	0.935	0.944	0.784	0.848	-0.805
知らない人と会話しておもしろかった。	0.189	0.960	0.958	0.941	0.819	0.994	1	0.825	0.906	0.927	0.929	0.764	0.867	-0.828
居心地がよく歩きたくなるまちだと感じた。	0.630	0.946	0.912	0.933	0.997	0.838	0.825	1	0.950	0.850	0.968	0.982	0.923	-0.621
メイン会場付近は一方通行のため普段よりも車を気にせずに安全だと感じた。	0.571	0.958	0.903	0.909	0.949	0.926	0.906	0.950	1	0.965	0.988	0.951	0.842	-0.595
普段入れない空き家や空き店舗に入ってワクワクした。	0.475	0.925	0.868	0.859	0.860	0.935	0.927	0.850	0.965	1	0.934	0.860	0.763	-0.562
歴史のある古いまちなみは心地がいい。	0.499	0.983	0.949	0.955	0.961	0.944	0.929	0.968	0.988	0.934	1	0.942	0.905	-0.697
駅のなか(テラスパ)に出店者がいたのでワクワクした。	0.753	0.899	0.839	0.863	0.986	0.784	0.764	0.982	0.951	0.860	0.942	1	0.841	-0.469
道路からの熱の戻りを感じた。	0.344	0.949	0.974	0.983	0.918	0.848	0.867	0.923	0.842	0.763	0.905	0.841	1	-0.834
木陰が少なく暑くて危険を感じた。	0.212	-0.775	-0.855	-0.839	-0.592	-0.805	-0.828	-0.621	-0.595	-0.562	-0.697	-0.469	-0.834	1

※相関係数とは、2つの変数の関係性の強さを示す数値です。

相関係数は-1から+1までの数値となり、一方の変数の値が多いほど他方の変数の値も大きくなる傾向があるとき、相関係数は正となり、正の相関があると言います。反対の動きをするとき、相関係数は負となり、負の相関があると言います。相関係数が高い場合、2つの変数間の関係が強いということになります。

※目安として、±0.2～±0.4で「やや相関がある」、±0.4～±0.7で「相関がある」と言われています。

相関係数の計算式

$$\frac{x \text{ と } y \text{ の共分散}}{x \text{ の標準偏差} \times y \text{ の標準偏差}} = \frac{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sqrt{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2} \sqrt{\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2}}$$

$$= \frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sqrt{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2} \sqrt{\sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2}}$$

総務省統計局資料より抜粋

方向性を示す基礎調査であるため、今後、本格的な調査をはじめるとは、指標の選定や精査が必要となりますが、現時点で始めたすべての指標において0.9ポイント以上の高い相関関係があることが分かりました。総合的にポイントが高いこともあり、むしろ低いポイントに対して、どのようにアプローチしたらより、高まるかなどの着眼点も必要かもしれません。

上記表から「居心地がよく歩きたくなるまち」と特に相関関係があるのは、「食べ物などのいい匂いがしてワクワクした」(0.997)、「駅のなかに出店者がいたのでワクワクした」(0.982)、「歴史のある古いまちなみは心地がいい」(0.968)の順に高くなりました。

歩きたくなるまちに感じるという感覚と「匂い」に強い相関関係がみえたのが特徴的で、人は美味しそうな匂いに本能が掻き立てられ、どこかもっと歩いてみたい、新しい発見があるのではないかという期待感が生まれてくるのかもしれません。

また、「駅の中に出店者がいたのでワクワクした」という感覚は、通常では”ありえない”、非日常的な状況に対して、期待感やワクワク感が生まれ、もっと歩きたい、もっとなにかを探したいという感覚になるのかもしれません。

「歴史のある古いまちなみは心地がいい」という本庄駅北口ならではの感覚において、歩きたくなるまちとの相関が高くなったことで、ひとえに再開発という言葉で、まちなみの景観を失うようなことは、歩きたくなる感覚と逆行することになるともいえます。

歴史あるまちなみのもと、美味しそうな匂いが漂い、偶然の出会いがありそうな期待感を生み出すことは、歩きたくなるまちの理由の1つとしてあげられるのではないのでしょうか。これらの基礎調査を元にした、本格的な調査が必要だと思われます。

五感で感じる指標

全指標の相関係数順位は以下のとおりです。

正の相関

Table with 3 columns: 順位, 指標, 相関係数. Lists 91 items related to positive correlation, such as '知らない路地裏に入ってワクワクした。' with correlation coefficients ranging from 0.9979 to -0.8545.

負の相関

Table with 3 columns: 順位, 指標, 相関係数. Lists 91 items related to negative correlation, such as '知らない路地裏に入ってワクワクした。' with correlation coefficients ranging from -0.8545 to 0.9979.

## 自由記述から見えてきたこと

アンケートで回答のあった自由記述に対して、最新の人工知能(AI)にテキストデータを読み込ませ、回答者全員の思考から言えることを解析しました。

## 自由解答欄「まちなかを歩きたくなるのはどんな時ですか？」303回答

「歩きたくなるまち」とは、以下の特徴を持つ街です。

1. 素敵なものや新しいものに出会える。
2. 子どもが遊べる場所や楽しいイベント、祭りがある。
3. 良いお店が点在しており、歩いて行ける範囲に集まっている。
4. 情報が分かりやすく表示されている。
5. 天気が良く、気候が適切で歩くのに快適な気温。
6. 人々が声をかけ合い、にぎわいがある。
7. 安全で、子供たちが安心して歩ける環境。
8. 古い建物や緑、路地裏が魅力的で、猫に誘われたりする。
9. お祭りやマーケットなどのイベントが開催されている。
10. 運動不足や疲れを感じたときにリフレッシュできる。
11. 一人旅や友人との会話を楽しむことができる。
12. 風景が美しい。
13. 街路樹や安全な歩道が整備されている。
14. 車通りが少なく、静かな細い道や昭和建築が残っている。
15. 天気が良くて、風が気持ちいいときに散歩が楽しい。
16. 気分転換やリフレッシュができる。

これらの特徴により、「歩きたくなるまち」は心に余裕があり、気分転換や探検を楽しむことができる場所です。天気が良い時や休日に家族で出かけたり、友人と楽しく過ごすことができる場所であり、運動不足やストレス解消にも役立ちます。また、魅力的なお店や歴史的な建物、イベントが開催されていることで、さらに歩きたくなる環境が整っています。

私たちが街を歩きたくなる瞬間はたくさんあります。イベントがある時、お祭りやマルシェが開催されている時、気分転換が必要な時、お天気が良い時、新しい発見をしたい時、魅力的なお店が並んでいる時、リフレッシュしたい時、人に会いたい時、風情ある場所を散策したい時、ストレス発散や散歩のため、自分を忘れたい時、疲れたとき、暖かい日、気候の良い時、買い物ついで、気持ちの良い季節、休日、子供と一緒にいるとき、新しい服を買った時、美味しい匂いが漂ってきた時、天気が良く活気に溢れている時、青空の下でビールが飲める時など、さまざまなシチュエーションで歩くことが楽しくなります。

これらの経験を通して、人々は地域の魅力や新しい発見を楽しみ、知らない人との出会いを喜び、街の歩道や街路樹が安全で歩きやすいことを評価しています。また、古い建物や緑、路地裏が魅力的で、猫に誘われて歩くのも楽しいと感じています。

このような機会があることで、人々は街の魅力を再発見し、地域が明るく活気づくことができます。また、イベントやマーケットが開催されることで、人々はより楽しく歩くことができ、地域の活性化につながります。

下線が引かれた箇所は、前述の「五感で感じる指標」で述べた部分に関わる内容と一致するところです。

自由記述からも、これまで検証してきた内容と概ね同じ分析結果がみられました。

## 自由記述から見えてきたこと(2)

## 自由解答欄「駅の連絡通路（改札口付近）や駅ロータリーは今後どのように活用されると良いですか？」65回答

このテキストデータから、駅のロータリーの活用方法として以下のアイデアが提案されています。

1. 出店やカフェ、飲食店、雑貨屋などの設置
2. イベント開催（フリーマーケット、マルシェ、セミナーなど）
3. 若者や子ども向けの活動やイベントの実施
4. 災害時の一時避難所としての利用
5. ストリートミュージシャンによるパフォーマンススペース
6. バス停の設置（空港バスや高速バスなど）
7. 座るスペースの提供
8. 地元の野菜や商品を販売する環境の整備
9. 人が交流できるスペースの設置
10. 駅前に小さな個人店が集まるエリアの形成
11. 駐車場の整備
12. 送迎のしやすさの向上
13. 歩行者の安全の確保
14. 乗り降りしやすさの向上

これらのアイデアにより、駅のロータリーは地域住民にとって魅力的で利用価値の高い空間となることが期待されます。

## 自由解答欄「道路を通行止めにしたマーケット（イベント）をどのように感じましたか？率直にお答えください。」23回答

このテキストデータから、イベントに関する感想が大体ポジティブであることがわかります。

参加者は、安全かつ安心できる環境で楽しむことができると感じており、普段できない体験ができることに喜んでいきます。

子どもたちも安心して遊ぶことが良いとされています。

道路が通行止めになることで、普段は通らない道でも歩行者天国のような雰囲気を楽しめるような意見があります。

全体的に参加者はこのイベントを楽しく過ごしていたと感じており、また開催してほしいという要望が出ています。

開催することで、マーケットに関わる人々にとって良いものであると考えられます。

## 自由解答欄「三交通りは道路が特殊なつくり（石のかみ合わせ）ですが歩きやすい、歩きづらい等はありませんでしたか。」88回答

このテキストデータからわかる答えは、ほとんどの人が歩きやすく、楽しめる道であり、雰囲気が良いと感じていることです。

また、車が多いと歩きにくいという意見もあります。全体的には、歩行者にとって歩きやすく、風情がある場所であることがわかります。

次年度以降の継続的な活用や持続可能な仕組みに向けた課題整理

---



## “車から自転車”へ、そしてウォーカブルな暮らしへ

商店街や点在するマーケット会場を歩いてもらう仕組みを作ること、車移動から自転車へ乗り換えてもらう「楽しいまちなかの仕掛けづくり」を続けてきました。

結果として、車移動では気付かない発見やまちなかでの出会いなども生まれ、ついには自転車が移動手段として、最適であることを発見したという声も聞かれました。

これからも、長期的な視点にたって、考え方を継続的に発信し続け、少しずつ緩やかな変化をもたらすことができるよう、来年度以降も継続していきます。

## 歩く仕掛けとコンセプトを掲げた楽しいマーケット等の継続開催

### ●月に1回、計10回開催し、ヒアリング調査を実施した結果

毎月必ず開催することを1年継続することで、毎月の楽しみとして来場してくださり商店街を歩くきっかけになっている方、毎月マーケットで会える人がいる楽しみがある方、大人になってマーケットをきっかけに久しぶりに商店街を歩き新しい発見があった方、初めて歩いて路地の楽しみを知った若年層の方など、様々な声が聞かれました。

### ●通りごとにテーマを変えて展開した結果

#### ①銀座通り：空き店舗の利用を実験的に進めるマーケット

→実際に空き店舗を4店舗、空き地を2箇所利用したマーケットとして開催することができました。

出店や来場をきっかけに空き店舗や空き地に入るきっかけを生み、将来的な出店を検討している来場者や出店者から、マーケット会場として使っていた空き店舗について、具体的に店舗を構えるにあたり3軒程度の相談を受けることもありました。

#### ②駅西通り：道路でのアクティビティを仕掛けるマーケット

→本庄駅とはにぼんプラザ臨時駐車場会場への往復

駅西通りの西側を通行止にして開催したマーケットでは、路上での高校生によるトークイベント、フォトスポットの設置、DIYワークショップの開催など、通常、路上ではできないアクティビティを仕掛けました。

車を通行止めにするすることで、子供達が安心して走り回れる状況を商店街の中に作る。道路に車が通る以外の意外性のあるアクティビティを仕掛けることで、道路空間に対する新たな視点を記憶に根付かせるきっかけとすることができました。

#### ③三交通り：滞在型マーケット

→一方通行かつ、車通りが比較的少なく、車道の幅も十分にある三交通りの特色を生かして、道路を挟んで会場を設置したり、ゆったり歩いて回遊できるような出店者の配置をしました。

### ●既存商店街のマーケットとの連携

商店街の既存店舗の方へご挨拶へ伺ったきっかけから声をかけていただき、店舗の定休日にも関わらずマーケット開催日に毎月軒先で出店してくださったり、閉店後の店舗のシャッターを開けて、店舗で使っていたものをフリーマーケット形式で出してくださったりという嬉しい連携もありました。



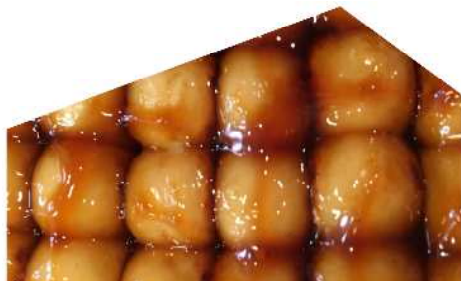
## マーケットでの仕掛け

### ●滞在したくなる仕掛け

運営チームが率先して椅子やテーブルを会場に持ち込むなどして滞在したくなる空間を率先して作り、SNSで「マーケットのたのしみかた」をライフスタイルとして発信していくことが重要です。



マーケットの、たのしみかた。  
歩いて来ると、最高の日常が待ってる。



マーケットの、たのしみかた。  
歩いて来ると、見えない素敵なものが見えてくる。



マーケットの、たのしみかた。  
まちを、道を、自分のリビングに。

近隣店舗のクラフトビール店の営業時間をアナウンスしたり、出店者に行列ができないよう居心地の良い混み合わない規模になるよう調整をし、出店者にもその主旨を理解してもらい出店してもらいました。

また、子供達が無料で遊べる場所を提供したり、会場に空き店舗を使うことで出店者を見てまわる以外に新しい視点でマーケットを楽しめる工夫をしました。

その結果、出店者と来場者の子供達と一緒に会場を駆け回り遊んでいる間に大人が滞在できるきっかけができたたり、マーケットのたびに商店街に集まり日中からお酒を飲みながら楽しむ大人の姿も多く見られました。



### ●自転車での来場を促す仕掛け

上記のSNSでの近隣店舗のクラフトビールを飲みながらマーケットロードバイク用の自転車スタンドを製作するDIYワークショップの開催、キックボードを自由に使えるよう設置して運営チームも会場の移動に利用したり、マーケット運営チーム自らが日常的に車移動から自転車・徒歩移動に切り替えることでウォークアブルなライフスタイルを実践する姿をSNSで常に発信しており、その結果、自転車スタンドの利用率も上がり、自転車での来場が可能なエリアにお住まいの方はマーケットをきっかけに自転車に乗って来場したり散歩を兼ねて徒歩で来たり、クラフトビールを飲みながらマーケットを楽しむために徒歩で来る方が少しずつ増えてきました。



この仕掛けの延長として、毎月私設公園でのビアガーデン

「PUBLIC BEER PARK」の開催に至りました。車で通りかかって会場の楽しそうな様子を見て、慌てて車を自宅に置いて徒歩で駆けつけたという来場者もいました。



## 次年度以降の提案

---

ウォークブル推進道路における機能改善の必要性・道路空間の多目的利用の可能性

●3つの通りの活用方法のまとめとご提案

マーケットを実施した3つの通りについて、それぞれ検証をまとめました。

	現状・特徴	問題 ※1	課題 ※2	機能改善の必要性 ※3	道路空間の 多目的利用による 発展の可能性	今後の 活用方法
銀座通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通量が多いため通行しきっかけに知ってもらえる</li> <li>・沿道に既存店舗、空き店舗が多い</li> <li>・本庄祭りや過去に歩行者天国を実施していた経緯から、歩くイメージがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道空間が狭い</li> <li>・車の通過交通量が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行空間が狭い状態で、どのように安全性を確保するか。</li> <li>・周辺道路への影響を抑えながら、どのように車の交通量を減らせるか。</li> </ul>	<p>沿道には既存店舗や空き店舗等の、人々の滞在・交流につながるストックが多く、滞留機能は充足していると考えられる。一方、車や歩行者の安全・安心な通行空間としての機能には、歩道を塗装することによる視認性の向上や歩道幅員の拡張などにより、その機能を改善することで、子供連れや高齢者にとっても安全な歩行空間が確保できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沿道には古くからの商店街に加え、新規出店も続くなど、人を惹きつける要素が多いことから、滞留空間の継続的な創出により、多様な活動が繰り広げられる場として、さらなる賑わいが期待できる。</li> <li>・本庄まつりや各種イベントの会場としても利用されており、様々な視点からの多目的利用を期待できる。</li> </ul>	<p>通過交通量が多い現状を受け、通行止めや一方通行などにより、今後の活用に向けた可能性を探りながら、本庄駅北口周辺のまちなかにおけるウォークブル推進の検証の場として活用する。</p>
駅西通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沿道に既存店舗、空き店舗が少ない</li> <li>・一方通行であり、交通量が少ない</li> <li>・幅員にゆとりがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沿道に既存店舗が少なく、歩き向かう目的が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように歩き向かう目的を創出するか。</li> <li>・歩き向かう目的が少ない状況において、どのように人を呼び寄せるか。</li> </ul>	<p>幅員に余裕があるため、車両及び歩行者等の安全・安心な通行は確保されており、通行機能は充足していると考えられる。一方、人を惹きつけ、交流を促す滞留機能については、沿道店舗等はないものの、余裕ある空間、本庄駅北口ロータリーに隣接するという立地条件を有効に活用した改善が求められる。</p>	<p>本庄駅北口に直結していることを踏まえ、駅利用者の動線にある道路空間として、人々の滞留や交流を促す活動（マーケットやその他のアクティビティ）の場として、多岐にわたる活用が期待できる。</p>	<p>本庄駅北口に直結している道路空間であるため、JR高崎線やロータリーを発着する路線バス利用者など、市内外の人々への帯い広告（周知）機能を活かす場として活用する。</p>
三交通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沿道には店舗が比較的残る</li> <li>・インターロッキングや程よい道路幅員に歩きたくなる要素がある</li> <li>・一方通行であり、交通量が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沿道に滞留空間として活用できる空き店舗が少ない。</li> <li>・歩きたくなる物理的空間を有するものの、人の五感（気持ちの良さ）に作用する要素が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりある、歩きたくなる要素をどのように活用し、人々の交流を生み出すか。</li> </ul>	<p>幅員に余裕があるため、車両及び歩行者等の安全・安心な通行は確保されており、通行機能は充足していると考えられる。本路線は立地条件から、「まちなかの路地」として位置付けた上で、新たな交流の場としての機能を付加することが求められる。</p>	<p>かつての路地が人々の交流の場であったことを受け、新たな交流を生み出す、現代における「まちなかの路地」としての活用が期待できる。</p>	<p>「まちなかの路地」として、道路空間を最大限に活用したアクティビティ（スポーツ会場、新たなモビリティの実証実験会場、子供たちの遊び場等）の場として活用する。</p>

※1 問題とは・・・あるべき姿（理想）と現状のギャップ

※2 課題とは・・・問題を解決していくために具体的に取り組むべきこと

※3 機能改善の必要性・・・国土交通省が提示している「ストリートガイドライン」での「Link & Place」を参考に、機能改善を考察してみました。

「ストリートの空間配分の考え方：Link（通行）& Place（滞在）」

上記表から検証した結果、来年度以降は、さらなるウォークブル推進のための仕掛け・実証をしていく必要があることを鑑み、

前例のないことを実践する場として

「銀座通り」に絞り実験並びに調査を行っていくことが適切だと考えます。

既存の営業店舗や新規出店が増えている点、今後活用できそうな空き店舗も複数存在する点、過去に近隣エリアの人が楽しみに集まった毎週日曜日の歩行者天国や、現在も続く本庄祭り開催での通行止めにより本庄市内外に暮らす人が集まるきっかけとなっている点、ハロウィンイベントやその他イベントで通行止めになり道路空間に楽しむ人が溢れる機会が比較的多いことを考慮し、銀座通りなら近隣住民の理解も得やすく、わざわざ歩くための目的が多く存在し、歩行するイメージが先行しているため前例のない実験的な仕掛けがしやすいと判断できます。

### 本庄駅北口でのウォーカブル施策の必要性について

1年間マーケットという手法を用いてウォーカブルに対する仕掛けを継続した結果、様々な有効性や実験結果を得ることができました。

一方で、駅西通り、三交通り、銀座通りの三路線の広範囲に分かれた実験ではデータマスの収集が困難なうえに、アクティビティも分散しやすいことも分かりました。

したがって、駅まで徒歩10分圏内である本庄駅北口エリア・特に銀座通りを中心とした半径200m程度のスモールエリアで継続的に仕掛け続け、検証を続けることで本庄市においてのウォーカブルモデルエリアとして検証を進めていくことの有効性を発見することに重点をおくべきだと考えます。

今後日本全国での人口の減少に伴い車の数も減っていくことも予想される中で、大切なのは

**車が通るばかりでない道路空間の活用の方法を実験し続けること。**

**歩くからこそ生まれる人と人とのコミュニケーションが重要視されること。**

**コミュニケーションから、ハード整備の必要性も具体的に見えてくること。**

**そして何よりも、人が豊かに暮らす場として**

**「歩きたくなる＝暮らしが楽しくなる」場を育てるために、**

**ウォーカブルの施策を打ち出し続ける必要があるということ。**

また、本庄駅北口の駅前広場の10年後の完成を目前に、駅近くで新規出店も相次いでいる「銀座通り」というスモールエリアで実験を積み重ね、駅前の計画に還元していく絶好のタイミングです。

**他のどこでもない、人口7万人台の本庄市だからこそ、**

**実験を積み重ねることで作ることができる前例があります。**

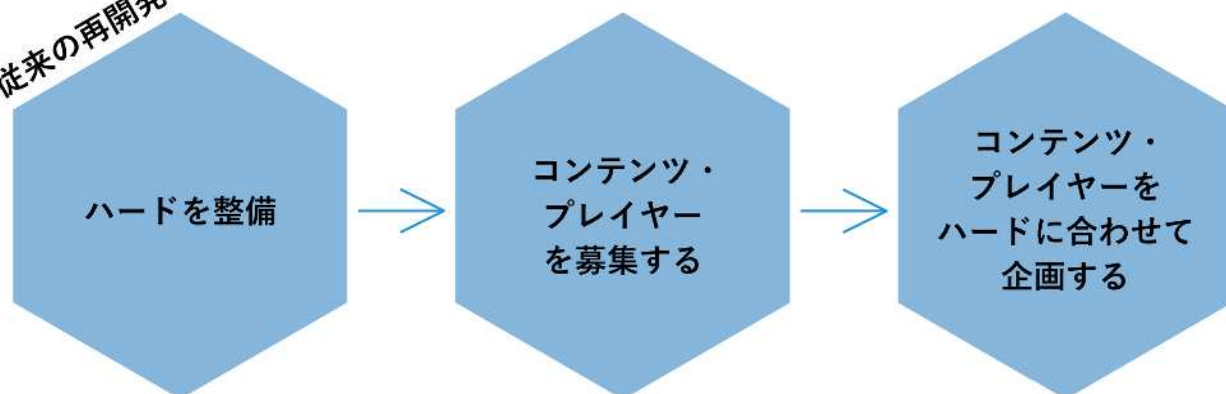
## 逆開発という考え方

最後に、ハード面（道路等の設え）について、提案いたします。

従来の再開発や都市計画でよくある方法として、ハードを先に作り、そこにソフトのコンテンツやプレイヤーを募集しハードに合わせていくというのが一般的でしたが、これからは人口減少の時代に合わせて、

**本庄で暮らす人の使い方・暮らし方に合わせてハードを作っていく「逆開発」の考え方を取り入れるべきだと考えられます。**

従来の再開発



→ハードに見合わない企画が生まれる  
当事者であるプレイヤーが置いて行かれてしまい  
ハードの活用頻度が下がる

これからの「逆開発」



→使い手によるハード整備により、当事者に必要とされる企画に育ち、ハードの活用が活発になる

逆開発を実現するためには、本庄に暮らし、すぐに実践に移すことができる

**本庄で当事者として活動する人が中心になって進めることが不可欠です。**

本庄に暮らす当事者が離れていかない、仕組み、手法を官と地元の”民”間事業者が連携し、推し進めていくことが必要だと考えます。

## 逆開発を進めていくために必要なこと

前述の逆開発に必要なサイクルは以下のとおりと考えます。

### 1.街路を活用する人たちを現在よりもたくさん増やすこと

道路空間を歩き楽しむ人、買い物をする人、お店を開ける人(プレイヤー)等の活用する人を最大限に増やすことでウォーカブル推進を下支えするためのハード整備に向けて「最小の経費で最大の効果」とするために関わる人をできる限り最大に増やしておく必要があると考えます。

### 2.エリアをマネジメントすること

活用する人がたくさん増えてくると、まちが次々に循環します。その循環を細部にわたり把握し、地域のコミュニティや、つながりをつくり、循環していくエリアを包括してマネジメントすることと、民と官をつなぐ役割を担い、時代の流れや状況変化に対応できる体制を整える必要があります。

それらができるのは、地域にリスクを負って拠点を構え、自分ごととして、暮らすまちを育てる覚悟を持っている当事者でなければできないと考えます。

昨今、都心等から大手企業が地方創生という大義名分を掲げ、元々あまり関わりのない地域に参入する状況が見受けられます。これらの実態はリスクを背負い地域に新しい拠点等を設け、活動するということはほぼ無く、住民とのコミュニケーションもほどほどに計画や整備を推進するため、本気で地域と向き合っている当事者が次々とその場から離れていく事例を多く見受けられます。そして、計画や整備が完了すれば、その地域から事業者は立ち去り、気付けば誰もそこには関わらないといった悪循環を招いてしまいます。このようなことが起こらないよう、当事者がいかに地域に関わり、エリアをマネジメントしていくかが、ウォーカブル推進(逆開発)のキーになると考えます。

### 3.実証実験を繰り返し、共感性を高めと合意形成を重ねること

ウォーカブルを下支えするハード整備が適合するのかは、やってみなくては分かりません。しかし、整備は一度スタートしたら高額の予算支出が伴います。失敗をして、本庄に暮らす子どもたちに、使わない道路空間と借金を残すことは本庄市民の誰もが望みません。

そのような不幸な状況に進まないように、これまで分かってきた数値を元に論理的思考から、何度も実験を繰り返す必要があります。例えば、ここの道路空間は、かなり人が滞在しているから、実験で沿道を広げてみよう。ここは、一方通行にして、沿道が広がるように見立てた場合に、人がどれほど歩くか見てみよう。もしかしたら、人口減少に伴い、車が減るため、ソフト面(規制や誘導)の対応で全面通行止にしておけば、ハード整備も不要ではないかなど、実験であれば、少額かつ、後戻りが可能で、そして、実験というプロセスを繰り返すことで、道路空間を楽しむ人、買い物をする人、お店を開けたい人と議論しながら、共感性を高め、いずれは方向性などについて、合意形成に多くの人に関わることになると考えます。

## サイクルを繰り返し、検証を続ける

今回の調査内容から判明してきたことを念頭におき、次年度以降も継続調査ならびにマーケット開催によって、関わりしろをつくり、道路空間を活用する人たちを増やし続けること、そして、エリアのビジョンをもった民間事業者がウォーカブル推進街路を中心にマネジメントしながら官との連携のもと、実証実験を繰り返すことが必要です。ある時は道路を一方通行にしたり、擬似で歩道を作ってみたりなど、上記の1~3のサイクルを繰り返し、当事者にとって、どのような道路の設えが必要なのか、留まること無く継続して検証していくことが重要であると述べ、報告を終わりとします。

## (付録) 打ち合わせ記録簿

---



## 業務打合せ記録簿

件 名	第 1 回打合せ				
日 時	令和 4 年 4 月 6 日 (水) 13:30 ~ 15:00				
打合せ方法	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">会議</span> (@本庄デパートメント) / 電話				
出席者	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;">発注者側</td> <td>本庄市市街地整備室：福島、大野</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;">受注者側</td> <td>本庄デパートメント：榎本、早川</td> </tr> </table>	発注者側	本庄市市街地整備室：福島、大野	受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川
発注者側	本庄市市街地整備室：福島、大野				
受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川				
議 題	今後の業務について				
配布資料	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">なし</span> / 別添のとおり				
内 容	<p>■ <u>本庄駅自由通路の活用方法について</u></p> <p>今後のマーケットにおいて、本庄駅自由通路を活用したい。昨年、館林市主催のイベントでも同規模の駅自由通路を利用した前例がある。</p> <p>→ (市) 本庄駅自由通路には利用等をまとめた条例等がなく、現状、公共機関による啓発活動のみを許可しており、営利を目的とする活動等は認めていない。自由通路にあっては、JR 東日本との調整も必要となる。所管する都市計画課へも確認してみる。</p> <p>→ (D) 高崎線のリブランディングで声をかけていただいた JR の山口さんへも相談してみる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>【山口さんとの相談内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新たな相談窓口の紹介           <ul style="list-style-type: none"> <li>篠原 慎太郎さん (山口さんの後任)</li> <li>✉ <a href="mailto:s-shinohara@jreast.co.jp">s-shinohara@jreast.co.jp</a></li> <li>井上 拓洋さん (宮城さんの後任)</li> <li>✉ <a href="mailto:laku-inoue@jreast.co.jp">laku-inoue@jreast.co.jp</a></li> </ul> </li> <li>✓ 山口さんの見解           <ul style="list-style-type: none"> <li>自由通路での販売行為は原則としてできないのですが、本庄デパートメントでの取組や今回の計画をご紹介のうえ、まちの活性化に関する思いをお話いただければ…</li> </ul> </li> </ul> </div> <p>■ 自由通路の天井から吊られているフラッグの活用について</p> <p>→ (市) 都市計画課が所管しているので、相談してほしい。</p>				



## 業務打合せ記録簿

件名	第2回打合せ				
日時	令和4年5月6日(金) 14:30～15:30				
打合せ方法	会議(@本庄デパートメント)				
出席者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">発注者側</td> <td style="padding: 5px;">本庄市市街地整備室：大野様</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">受注者側</td> <td style="padding: 5px;">本庄デパートメント：榎本、早川</td> </tr> </table>	発注者側	本庄市市街地整備室：大野様	受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川
発注者側	本庄市市街地整備室：大野様				
受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川				
議題	5,6月のマーケットについて				
配布資料	別添のとおり				
内容	<p>●アンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート:今まで50-80程度の回答数だった。今後はスタンプラリーの景品をアンケート回答必須にしたり、マーケット後にinstagramのストーリーでリンクを貼るなどして行く予定。</li> <li>・三交通りデパートメント(5/8)のアンケートの狙いについて → 駅西と三交は一方通行だが銀座通りは違う。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→銀座通りを仮に一方通行にした場合、道路が広がるので拡幅という扱いになるのでは? そうなると歩道も広がり歩きやすくなり、安全性も高まるのでは? という仮説を立ててみる。</li> <li>・片方だけ、車が来るかどうか気にすれば良いので安全。</li> </ul> </li> <li>→拡幅すると通り沿いの空き店舗や既存店舗が守れるので、今後開業したい人にとっても良い。</li> <li>→道を物理的に拡幅しないなら、そのぶんお金がかからなくなる。そのお金を、駅北口の開発など必要な場所に回すことができる ・三交通りのインターロッキング(一般にもわかりやすい言葉でアンケートに反映)が歩きやすいか? 歩きにくい?をアンケートに加える(パブコメで指摘があったため)</li> </ul>				



内容

●駅西通り(6/12)のマーケットについて

・当日、はにぼんプラザで団体利用(40名+24名)があるが、都市計画課から社会実験ということで利用できるように申請する:マーケット利用は第二駐車場の1/3程度を想定、申請用の配置図を木庄Dで用意

・事前にプラザ側からマーケットの告知をする必要もある

・館林駅の自由通路をマーケット利用に使えた実績について:館林は自由通路に関する条例があり、それが使えた。木庄はないのですぐに作るのは難しい。そのため自由通路で立ち止まる行為は難しい。

・テラスパの広場を作った経緯として、駅の自由通路が制限があるので、自由に使える場所を、という意味があった

・広場の利用の申請は商工観光課へ

・テラスパの指定管理者へ大野さんから連絡してみる→5/16打ち合わせへ

・トヨタレンタカー窓口のあるポーチ部分に出店は可能か?→確認後、不可能。JRのものとみられる自動販売機が設置されているが、何かの糸口にならないか?更に確認して頂く(大野さん)

・自由通路の今後の利用に関する交渉 →改札を出たベンチ脇に大型の黒板(置くだけ)を置いたりできるか?→2回目の駅西マーケットからJRさんへ交渉する(線路へ投げ入れられないもの、かつ可動であることも伝える)

→首からばんじゅうを下げる(昔の駅のパン屋さんのような)から可動式の小屋、など少しずつ実験 できたら

→6/12のマーケットのお誘いを、JR高崎支社の現担当者へお伝えする(実際にマーケットを見てもらえたら)来てくださったら、交渉の件をお伺いしてみる

●今後について

・10月三交、11月駅西あたりで道路占用をとって開催も視野に入れたい



## 業務打合せ記録簿

件名	第3回打合せ				
日時	令和4年5月16日(月) 9:00～10:00				
打合せ方法	会議(@テラスパ本庄)				
出席者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">発注者側</td> <td>本庄市市街地整備室：福島様、大野様</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">受注者側</td> <td>本庄デパートメント：榎本、早川</td> </tr> </table>	発注者側	本庄市市街地整備室：福島様、大野様	受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川
発注者側	本庄市市街地整備室：福島様、大野様				
受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川				
議題	6月のマーケットについて				
配布資料	別添のとおり(駅西通りデパートメント概要・地図)				
内容	<p>※TMO 本庄川野邊 さん、カフェテラスパ店長室井さん、商工観光課栗田さん・三井さんもご同席</p> <p><b>●6/12 駅西通りデパートメントについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要は理解、前向きに検討したい。カフェについては日曜定休だが、日曜も本当は営業したいが、学生アルバイトや主婦のパートさんなど土日働けないスタッフも多く、人手が足りず営業できていない。副店長候補を育てているところだが、まだ数ヶ月かかるため店長が休みがなくなり負担が増えるので今週いっぱい(20日まで)検討したい。(駅西通りデパートメントの日の11-16時のみ開ける、ドリンクのみにするなど、色々な方向で検討)</li> <li>検討次第、大野さんへご連絡頂く。ランチをやるかどうか、開店時間など詳細も伝わるよう告知の際に工夫する(本庄D) →日曜特別営業、ドリンクのみ、など明記</li> <li>・広場については商工観光課の管理(申込先も)、スタジオについては市の事業に関するものは無料で利用できる。 都市計画課から利用申請をする(大野さんより)</li> <li>・スタジオについては14-18:00で中国語レッスンで利用予約がすでにあるため利用不可。14時まで何かで使うか検討(本庄D) 利用予約した方に、広場が賑やかになるのが差し支えないかを確認して頂く(川野邊さん)</li> <li>・広場に3-4店舗なら設置可能、火気使用はNGだがお弁当の販売等は可能</li> </ul>				



内容

・スタジオで音楽などのイベントもやるが、それが逆に広場にも入りにくくなってしまい集客が難しいという難点もある。マーケットの場合も人が駅まで来るか心配(室井店長) →スタンプラリーのひきが強いので、テラスバにもスタンプを設置する

・雨の場合、飲食出店者の仕込みや仕入れも考えて3日前に中止など判断をする。テラスバのみで屋内開催にするか(火気使用の出店者は出店を断念もしくは形態を変える)なども視野に入れる。



## 業務打合せ記録簿

件名	第 4 回打合せ				
日時	令和 4 年 5 月 31 日 (火) 8:40 ~ 10:00				
打合せ方法	会議 (@本庄市役所 301 会議室)				
出席者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">発注者側</td> <td>本庄市市街地整備室：福島様、大野様</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">受注者側</td> <td>本庄デパートメント：榎本、早川</td> </tr> </table>	発注者側	本庄市市街地整備室：福島様、大野様	受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川
発注者側	本庄市市街地整備室：福島様、大野様				
受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川				
議題	6 月のマーケットについて				
配布資料	なし				
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当口、熊谷駅、SUZUKIYA などでマーケットをやる予定 →電車で本庄駅から熊谷駅に行ってもらう、という流れも良いのでは</li> <li>・雨の場合、6/9(木)には判断。集客も減るので、出店者に出るかどうか事前に確認を取る。</li> <li>・6/10 朝 8:30 にはにぼんプラザ P2 のバリケードを貼る(口曜まで置きっ放しの車がないように)→中止の場合、バリケードを取るので大野さんに連絡</li> <li>・カフェテラスバは、店長不在だが川野邊さんがメニュー縮小し営業</li> <li>・広場入り口の自動ドアは開閉が頻繁だと危ないので、開けっ放しにする →空調については当日判断。商工観光課、TMO 本庄にも大野さん確認済</li> <li>・広場は持込での飲食は可能か? →カフェで一品買ってくれば OK か</li> <li>・座って食べられる場所も少し欲しい →駐車場にいくつか椅子など出す予定</li> <li>・アンケートについて 三交通りのアンケートで、インターロッキングだから歩きにくいという回答は少なかった。 駅西通りのアンケートでは、今までの質問をベースに、駅をからめた質問を 2 問くらい入れる予定。→駅前の開発もあるので、繋がるものとしたい</li> </ul>				



内容

・公共空間の利活用や都市計画の視点で、もっと自由通路やトヨタレンタカーの脇のスペースもオープンに使うべきではないかという意見も市役所内に出ている。  
→今後自由に使うせっかん条例を作る上で、社会実験として使っていけたら。  
これから JR と施設公園係と調整していきたい。

→出店者やゲストが自由通路を使いたいという意見がアンケートで上がってくると、後押しになるのでは→アンケートに反映する

将来的に駅前の開発：マーケットができる駅前になる方向性を考えると、それまでにその流れを作っておきたい。駅前は 5-10 年の長期計画。

・「こうなっていて欲しい」というウォークアブルなイメージとは？

・ハイテクなものはあるけれど、暮らしは人の顔が見えたりする昭和な暮らし(稷本の暮らし)が幸福度が高いのでは？と考えている(早川)

近くで働いて、近くで暮らす

・中国では、無人運転の車がぐるぐる走っていて、いつでも乗れる状況-車を所有する必要がないというのがすでに始まっている



## 業務打合せ記録簿

件名	第 5 回打合せ				
日時	令和 4 年 6 月 21 日 (火) 14:00 ~ 16:00				
打合せ方法	会議 (@本庄デパートメント)				
出席者	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;">発注者側</td> <td style="padding-left: 5px;">本庄市市街地整備室：福島様、大野様</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;">受注者側</td> <td style="padding-left: 5px;">本庄デパートメント：榎本、早川</td> </tr> </table>	発注者側	本庄市市街地整備室：福島様、大野様	受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川
発注者側	本庄市市街地整備室：福島様、大野様				
受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川				
議題	アンケートと今後の進め方について				
配布資料	マーケット実証実験について(福島様より)				
内容	<p><b>マーケットについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの回答数 100 を取るのがハードルが高い</li> <li>・買い物に来てアンケート、のイメージが悪い</li> <li>→集客が増えれば回収数も増えるので、マーケットの認知次第でもある</li> <li>・アンケートの主催が本庄市となると、意見したい方も含め回収率が上がる可能性もある</li> <li>→本庄市と記載して問題ない</li> <li>・アンケートに答えた人の中で抽選でドリンクチケットが当たる</li> <li>→番号カードを渡して、instagram で当選発表(発表日を決める)</li> <li>→7/10 投票済証明書持参で試しにやる</li> <li>・日常的にお店(本庄デパートメント)でアンケートをとる</li> <li>→マーケット特有の質問ではなく、スタンダードな質問だけのものとする</li> <li>・マーケットでわかること(福島様の資料 5.実験の成果)</li> </ul> <p>①沿道店舗の売り上げ</p> <p>②ウォーカブルの感覚値(子供の声が聞こえる、など)で居心地の良さを測る</p> <p>③車のスピードがマーケット開催日や公園ができたことで変化があるかどうか</p> <p>④駅西通り：一方通行だからこそ良いか？ 三交通り：インターロッキングだから歩きやすいか？など通りごとの内容</p>				





内容

**今後のマーケットについて**

- ・銀座通りは一方通行が良いのでは？
  - 実験として、10/23 ハロウィンイベントでは道路を停めるので、どう車が動くか見ることができる
- ・社会実験として、銀座通りデパートメントの時に銀座通りを一方通行にしてみることも検討
- ・(福島様の資料より)心にゆとり→潤す→人の顔が見えるからこそ、自分ごとになり、サステナブルな動きにつながるのでは？
- ・まちに対する期待感をどれだけ持ってもらうかが大切
- ・マーケットでは出店者が最低¥1500 の出店料というリスクを負って、まちに対して自分ごとにしてもらう
- ・マーケットでこれだけ沿道店舗が売り上げが上がっているというデータを、これからお店を出したい人に見せてあげると、一つ安心材料になる、背中を押せる

**来年度に向けて**

- ・波及しているエリアに限って、アンケートをとる：アンケートを合意形成の場にする
- ・市全体でアンケートをとるなら、ウォーカブルといっても健康(はにぼんチャレンジ)、歴史(七福神めぐり)、など各課にまたがって横串が通っていないので、市としてのウォーカブルは？という意見に対して整理する必要がある
- 小さなエリアで成功事例を作って、エリアを変えたり広げてみたりで実験的に繰り返すべき
- 北口でウォーカブルは可能なイメージが取られるが、兎玉でウォーカブルといってもピンとこないのが現状。可能なエリアで、成功事例を作っていくのが大切なのでは？
- 市街化整備室としてやるか、市としてやるか

- ・データに振り切りすぎない方が良い：データは補足程度

太田駅前の須永さん(6/13MEET&TALK 登壇者)の例のように、意識していなくてもウォーカブルができて、というあり方も。

データは合意形成のために必要。これだけのデータが取れているという盾になる。正当性を示すものになり、合意形成につながる。

→ウォーカブル指標をとることは必要。だがゴールではなく、手段として

**その他**

- ・上里町役場も、駅の北口を整備する上でウォーカブルも視野に入れており、どんな内容でアンケートを取っているのか情報提供をお願いされている。
- 文章で早川から大野様へ送付



## 業務打合せ記録簿

件名	第6回打合せ	
日時	令和4年9月7日（火） 10：00～10：30	
打合せ方法	会議（@本庄市役所）	
出席者	発注者側	本庄市市街地整備室：福島様、大野様
	受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川
議題	今後の進め方について	
配布資料	なし	
内容	<p><b>9/11マーケットについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常通り、アンケートも実施する。こどもマーケットも開催予定。</li> </ul> <p><b>11/13マーケットについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上里町のまちづくり推進課の職員さん派遣と、同日神保原駅前の開発が必要かどうかを検討するためにマーケットをしたいと言う話があり、こちらもフライヤーを依頼されている。</li> <li>駅をまたいだ歩く範囲が広いマーケットとして開催してみると面白い</li> <li>上里町とも連携してやっていく方向で進める</li> </ul> <p><b>12/11マーケットについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/27本庄MEET&amp;TALKでマーケット主催者が集まる機会があるので、その日に駅西通りで、それぞれのマーケットの色は変えずに、同じ日付で一つの会場に複数のマーケットが集まる企画を投げかけてみる予定。</li> <li>規模が大きいので、道路占用を出して開催したい。</li> <li>警察の許可は、都市計画課と一緒に警察に相談に行くことも可能。</li> <li>市役所、道路管理課にも相談が必要。</li> <li>・七高祭の制作物が完了している状況で、このマーケットの中で発表の場を作りたい(広報課にはお伝え済)</li> </ul> <p><b>中間報告書について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9/11のマーケットの結果を受けて半年の報告書を作成</li> <li>・10月以降の提案も含めて報告書に盛り込む</li> <li>・アンケートの単純集計+クロス集計を盛り込んだもの</li> </ul>	



内容

次年度以降について

- ・仲町ポケットパークの地権者さんとの連携を始めていきたい。
- 固定資産税出かかっている部分を補填する程度の家賃で、むしろ価値を上げていきたいと言う点をお伝えしてお借りしたい。
- 都市計画課で地権者さんにはお繋ぎしていただく。(10月以降)

その他

- ・議会の方から、ウォークブルのためのマーケットだが車で来ざるを得ない場所からの来場の方に対して駐車場を用意しているのか？してないのか？と質問があった。
- 広範囲というよりも近いエリアの方が日常を楽しむマーケットとして開催しているので、駐車場の用意はしてない。
- 障害をお持ちの方など、申し出があった際には本庄デパートメント側で数台用意がある。SNSでもその旨記載している。
- ・北口のワークショップの際に、東は車と、西は歩行者、と分けてみては？と早川が提案をした。(車利用は排除はできないので)
- ・先日、「逆開発」という話をしてくださった方がいて、私たちの共通理念として、まさにそれだと感じたところがありました。
- インフラを整備してから使い手を決めて開発してきた時代はもう終わっていてこれからは使い手に合わせてインフラを整備するという流れを当たり前にしたい。「居心地の良いウォークブル」の「居心地の良さ」とは、使い手の居心地の良さであるはず。



## 業務打合せ記録簿

件名	第7回打合せ				
日時	令和4年10月5日(水) 16:00～16:30				
打合せ方法	会議 (@本庄市役所)				
出席者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">発注者側</td> <td style="padding: 5px;">本庄市市街地整備室：福島様、大野様</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">受注者側</td> <td style="padding: 5px;">本庄デパートメント：榎本、早川、津根(上里町役場から研修中)</td> </tr> </table>	発注者側	本庄市市街地整備室：福島様、大野様	受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川、津根(上里町役場から研修中)
発注者側	本庄市市街地整備室：福島様、大野様				
受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川、津根(上里町役場から研修中)				
議題	今後の進め方について				
配布資料	なし				
内容	<p><b>10/16 マーケットについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの回収に苦戦している。(マーケット開催時にデータを取る必要がある)</li> </ul> <p>中間報告について</p> <p>この段階でクロス統計を取ると、後半のデータの集計と食い違う可能性があるため、単純集計で報告書を作成する予定。</p> <p><b>11/13 マーケットについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神保原駅前には24店舗。駅から北にまっすぐ伸びる通り、旧トライアル前までの通り沿いに6箇所に分けて出店の予定。</li> <li>・どちらも駅を使って歩いてもらうという狙いが一致している。</li> <li>・スタンプラリーでどちらも行ってもらう案もあるが弱い。顔まわりで印ができるもので、本庄に行った人、神保原に行った人、がわかるようにしたい</li> <li>→スタンプラリーカードを紐の色を変えて首から下げられるようにする</li> <li>→スタンプラリーを各6箇所ずつ、一枚に2会場をまとめて新しいカードを作る</li> <li>・駅に会場案内のサインは置けない。掲示板に貼ってもらうか、自由通路のベンチの空いている席(ソーシャルディスタンスで空いている席)にパネル化して地図などを掲示できないか？</li> <li>・鉄道150周年の記念のタイミング。その一環の建てつけで置けないか？</li> <li>→市街地整備室から、JRに確認</li> </ul>				



内容

### 12/11のマーケットについて

MEET&TALKで提案した各マーケットの集合での開催は、準備期間が短いのでこの事業外で、少し先に計画することになった。

- ・七高祭の制作の発表だけでなく、高校生たちから文化祭のような要素もやりたいという意見が出ました(焼きそば、フンプレラスカイなど)
- ・道路をとめるに当たって、駅西通り全体ではなく、交番やはにぼんプラザ臨時駐車場もあるので、はにぼんプラザ寄りに場所を限定してとめる形ではどうか？(本庄皮膚科にも協力を依頼、東から来た車は路地に逃がす)  
→それで一度やって前例を作り、駅西全体での通行止の計画に展開して行けたら。
- ・道路空間の新しい使い方がウォークابلにどのくらい影響があるのか、を実験する場として実施。
- ・広報課で七高祭のポスターを半径30kmまで150校ほどの中学校に貼る予定がある。(ポスター制作は本庄デパートメントがやる予定)  
そこに12/11の発表会の告知ができると、見に来てくれる中学生がくる可能性もある。
- ・こどもマーケット、コンポスト作りのワークショップも12/11に開催予定。

### その他

- ・地元へのアナウンスとして、回覧板への掲載、ウォークアブルの市のHPのページがないので作るなどして周知を図りたい。  
→周知用の資料は大野さんに制作いただく(素材は本庄デパートメントからも提供)
- 12/1号の広報紙に、12/11の七高祭も絡めた話を市街地整備室と広報課とで載せてはどうか？



## 業務打合せ記録簿

件名	第 8 回打合せ				
日時	令和 5 年 1 月 25 日 (水) 15:00 ~ 16:30				
打合せ方法	会議 (@本庄市役所)				
出席者	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;">発注者側</td> <td>本庄市市街地整備室：福島様、大野様</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;">受注者側</td> <td>本庄デパートメント：榎本、早川</td> </tr> </table>	発注者側	本庄市市街地整備室：福島様、大野様	受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川
発注者側	本庄市市街地整備室：福島様、大野様				
受注者側	本庄デパートメント：榎本、早川				
議題	2 月のマーケット、駅前開発事業者との意見交換について、他				
配布資料	意見交換に関する資料(市街地整備室より)				
内容	<p><b>2 月の空き家空き店舗マーケットについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本庄デパートメントで現在動かせる空き店舗 3 箇所(旧花長、旧三浦岸、旧第七電気商会)+本庄デパートメント+本庄銀座 GOOD PARK で、屋外開催ではなく空き店舗をめぐるマーケットを 2/19(日)に計画 (ほんじょう寺子屋も 2 つの空き店舗の間にあるため、協力を依頼し承諾済)</li> <li>・マーケットの際、通常のマーケット同様アンケートもとる予定</li> </ul> <p><b>5/7 ウォークアブルの大型実験マーケットについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神保原駅、本庄駅、深谷駅、熊谷駅の 4 駅 4 市町にまたがるマーケットを計画。熊谷駅アズ 6F にある PLACE COFFEE に関わるメンバーと、6 名で新たにチームを組み、深谷駅にある市民サービスセンターギャラリー2 のトライアルサウンディングに応募、採択されたため(5-8 月のポップアップ)深谷駅でもマーケットが可能になり、5/7 は深谷駅ではポップアップのオープニングマーケットとして開催予定。</li> </ul> <p>神保原駅では上里町主催の「ちいさな駅前を旅するマーケット」(本庄デパートメントが企画)、本庄駅ではテラスパ本庄内での「駅西通りデパートメント」、熊谷駅では「PLACE MARKET」と同時開催する予定。すでに各主催者は了承済で、準備に取り掛かっている段階。 (時期的に事業範囲外の期間になるため、市街地整備室でなく商工観光課の後援で調整中)</p> <p><b>日本工営都市空間(株)さんとの意見交換について(配布資料参照)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換テーマ 2,3,4,7,8 は日本工営(株)さんからの提案</li> <li>・他にも議題があればお伝えする</li> </ul>				

